

ぶらっとサロン椿通信 令和3年2月号



今号の椿/ヤブツバキと蜜を吸うメジロ

報告:有楽斎

毎週火曜日の午後1時過ぎから午後4時半ごろまで、朝日2丁目集会所で「健康麻雀ミーティング」をワイワイガヤガヤとやっていたのですが、新型コロナウイルス感染拡大防止の為、一昨年3月10日から自粛し**現在休局中**です。 本年発行よりタイトルに『椿』を加えました(有楽斎)

鳥媒花(ちょうばいか) ornithophilous flower

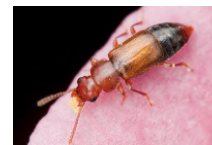
ツバキ類は、昆虫や果実が少ない真冬に花が咲くので、蜜を求めるヒヨドリやメジロを効果的に呼び込み、花粉の運搬と受粉をしてもらっている。こうした鳥たちに花粉を運んでもらって受粉する花を鳥媒花という。**真っ赤な色**は、鳥が好む色で、花粉を運んでもらうための戦略である。枝先に赤色の花が1個ずつ咲く。赤い花弁が5枚で余り開かず、花の中心の雄しべの黄色とのコントラストが美しい。

奥琵琶湖・山門水源の森現地交流会「ユキバツバキの魅力に迫る」(2019.4.14 阿部 晴恵氏(新潟大学農学部 准教授))

自家不和合性(じかふわごうせい、英語: self-incompatibility, SI) が **高いツバキ類**

被子植物の自家受精を防ぐ数種類の遺伝的性質の総称である。ある植物個体の正常に発育した花粉が同じ個体の正常な柱頭に受粉しても受精に至らないこと、あるいは正常種子形成に至らないことを自家不和合と呼ぶ。

ヤブツバキとユキツバキの媒介者について



ツバキの花粉を食べるハネカクシの仲間←

ヤブツバキ 鳥媒介(メジロ、ヒヨドリ・・・)

ヤブツバキは 蜜量が多く薄い・花弁が合着している
⇒花蜜を多く貯めている可能性
花弁が赤(鳥媒介植物の特徴)

ユキツバキ 小型の昆虫(ハグロケバエ、ハエ目、ハネカクシ・・・)
ユキツバキは 蜜量が少なく糖度が高い(小型の昆虫に適応)
また 伏条更新(下枝が雪に埋もれ、その部分から発根し、個体として、生育)による栄養繁殖を行うことが知られているが、さらに自殖による種子繁殖も行うことで、花粉媒介者の存在に完全には依存していないことがわかってきた(阿部准教授)

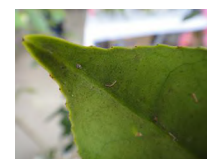
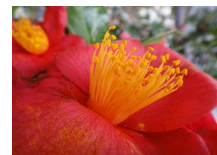
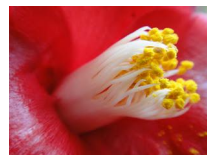
蜜が取り持つ親密な関係



ヤブツバキ
(Camellia japonica)
メジロ
(Zosterops japonica)

温帯の日本では 花を訪れる動物としてチュウやハチなどの昆虫が代表的で 多くの植物も昆虫が活動している 春から夏に花を咲かせている しかし 冬に花咲くヤブツバキには 主に鳥が訪れる 特にメジロは 他の鳥と同じように木の実や昆虫も食べるが 花蜜を吸うのに適したブラシ状に細かく分かれた舌を持っており 冬になるとその餌の多くをツバキの花蜜に頼るようになる つまり **メジロとヤブツバキは持ちつ持たれつの甘い関係**

右図はヤブツバキとユキツバキです
どっちがどっち



ヒント:ヤブツバキは赤系の濃い色 花糸色は白 筒しべ 葉縁なめらか ユキツバキは赤系の浅い色 花糸色は黄 ユキ芯 葉縁ギザギザ

※答えは各マヒントを見て考えて下さい